

上小地域のRSウイルス感染症発生状況について

令和3年（2021年）9月13日
長野県上田保健福祉事務所

1 はじめに

RSウイルス感染症が全国的に急激な増加が見られている中、上田地域においても保育施設等で園児を中心とした集団感染事例が散見されています。

RSウイルス感染症の感染経路は飛沫感染と接触感染で、0歳児と1歳児に多く発症するといわれています。感染に対する意識の定着が困難な年齢であることを踏まえ、保育施設等は特に蔓延リスクが高いと考えられます。症状としては軽症で経過する 경우가ほとんどですが、肺炎等重症化することもあり、軽視はできない感染症です。

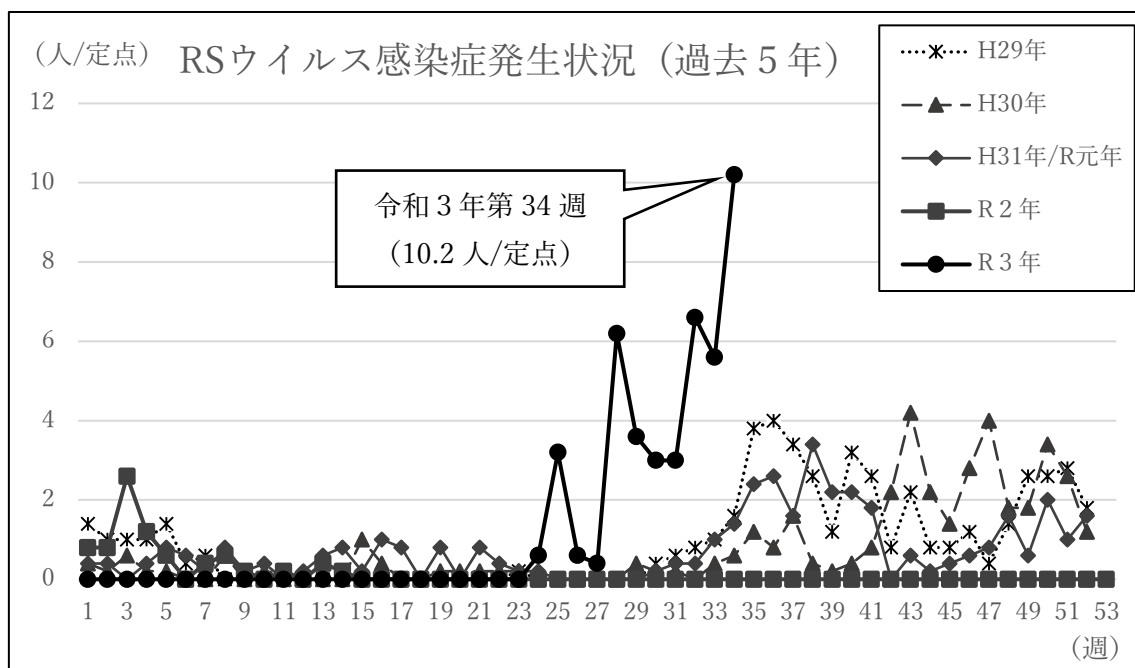
感染予防策は、マスクを着用すること、3密を避け室内の換気を徹底すること、症状があれば外出を控えること等の基本的感染対策が大切になります。

県民の皆様、学校、保育施設、高齢者施設等関係者の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症対策と併せて、基本的な感染予防対策の徹底について何卒御協力お願いいたします。

2 RSウイルス感染症の発生状況（上田保健所管内）

令和3年第34週（8月30日から9月5日）において、管内5つの定点医療機関（小児科）から報告された患者数は、51人（1定点あたり10.2人）で、今年最も高い値となりました。

また当該感染症は例年、夏の終わりから冬にかけて流行する傾向がありますが、今年は第28週（7月12日から7月18日）から報告数が増加傾向にあります。



3 RSウイルス感染症とは

(1) 症状等

RSウイルス (Respiratory syncytial virus) を原因とする病気です。感染してから2～8日 (典型的には4～6日間) の潜伏期間を経て発熱、鼻汁などの症状が数日続きます。どの年代でも再感染を起こしますが、特に乳幼児期において非常に重要な病原体であり、生後数週から数カ月の期間に気管支炎、肺炎といった重症な症状を引き起こすことがあります。

(2) 感染経路

RSウイルスに感染している人が咳やくしゃみをした際に飛び散るしぶきやウイルスの付いた手指、ドアノブ、おもちゃなどに接触することで感染します。

乳幼児のいる家庭においては家族からの感染の可能性もありますので注意が必要です。

(3) 感染拡大の防止

流水・石けんによる手洗いや、アルコール製剤による手指衛生が有効です。特に日常的に乳幼児と接する方は、外出後等にしっかりと手洗いをするとともに、咳などの症状がある場合には、必ずマスクを着用してください。

また、保育所・幼稚園等に通園している乳幼児の保護者の方は、感染症の集団発生を防ぐため、お子さんに発熱・鼻汁・咳などRSウイルス感染症を疑う症状がある場合には、登園を見合わせていただき、医療機関への受診を検討してください。

4 おわりに

感染対策等について事実に基づかない情報が拡散される例があります。根拠や発信者の不明な情報に基づく行動、情報の拡散は行わず、公的機関等の科学的根拠に基づいた情報の御確認をお願いします。

【参考】

(1) 厚生労働省「RSウイルス感染症Q&A」

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs_qa.html

(2) 国立感染症研究所「RSウイルス感染症とは」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/317-rs-intro.html>

(3) 長野県感染症情報

<https://www.pref.nagano.lg.jp/hoken-shippei/kenko/kenko/kansensho/joho/index.html>

長野県上田保健福祉事務所 健康づくり支援課
(課長) 中澤 文子 (担当) 山口 蓮
電 話 0268-25-7154(直通)
ファクシミリ 0268-23-1973
電子メール uedaho-kenko@pref.nagano.lg.jp